

東海学院大学・東海学院大学短期大学部公開講座 2024

「はつらつと生きる ～大学は知の宝庫～」

第7回 12/6（金）13:30～15:00 報告

「知っておきたい高齢者の感染症」

講師 山本 初津恵（本学講師）於：図書館大セミナー室

◆◆◆◆◆◆*◆◆◆*◆◆◆*◆◆◆*◆◆◆*◆◆◆*◆◆◆*◆◆◆*◆◆◆*

令和6年度第7回公開講座が12月6日（金）に開催されました。山本先生は受講生の深い関心のあるテーマのひとつ、感染症とその回避について話しました。本学で臨床検査技師の養成に携わっています。臨床検査技師は疾病の対策と治療に貢献するスペシャリストです。当日配布された山本先生自らの講座のレジュメを以下に引用します。

1.感染症とはなにか

私たちの身の回りには、常に目に見えない多くの微生物（細菌、ウイルス、真菌（カビ、酵母等）が存在しています。

感染は、病原体が人間の体内に侵入、定着し、増殖することで成立します。

感染症は環境中に存在する病原微生物が引き起こしますが、具体的にはウイルス、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、細菌、カビ、原虫が感染症を引き起こします。

感染しても、症状が現れる場合（顕性感染）と、はっきりとした症状が現れない場合（不顕性感染）があります。不顕性感染者は、知らない間に保菌者（キャリア）となって病原体を排泄し、感染源となって感染を拡げる可能性が高いので、しばしば問題となります。病原体に感染した人（感染者）・動物・昆虫や、病原体で汚染された物や食品が感染源となります。感染しないようにするには感染源を隔離することや消毒することなどが、有効な対策方法です。

感染経路については感染が起こるには、感染源から病原体が人間に侵入しなければなりません。そのため、感染経路の遮断は、重要な対策の1つとなります。

日常生活において、注意すべき主な感染経路としては、接触（経口）感染、飛沫感染、空気感染（飛沫核感染）の3つが挙げられます。

2.一般的なかかりやすい感染症

感染症は非常にたくさんあります。年齢によってかかりにくい感染症とかかりやすい感染症も…。高齢者は抵抗力が弱いので、さまざまな感染症にかかりやすい傾向があります。

高齢者が特に気を付けたい感染症として、新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ、肺炎、誤嚥性肺炎、結核、レジオネラ症、感染性胃腸炎、带状疱疹などがあります。

3.免疫の力

私たちの生活のなかには、さまざまな病原体が存在しています。しかし、病原体を体内に

取り入れてしまったからといって、全ての方が感染症にかかるわけではありません。麻疹や水ぼうそうなどの感染症は「一度かかるとかかりにくい」といわれますが、それは免疫細胞の働きが関係しています。

免疫細胞には複数の種類があり、互いに連携しながら病原体と戦うのですが、中には「一度体内に侵入した外敵を記憶し、次の侵入に備える」という働きをもつものもあるのです。

免疫には大きく分けて「自然免疫」と「獲得免疫」の2つがあります。自然免疫は生まれつき人間の体に備わっている免疫、一方で獲得免疫は一度体内に侵入した異物を記憶し、攻撃することで排除する免疫です。一度かかった病気にかかりにくいのは、この獲得免疫が抗体を作ることで、ウイルスなどの抗原を処理してくれるためです。

4.高齢者がかかりやすい感染症

結核とは、結核菌によって主に肺に炎症が起きる病気です。最初は風邪に似た症状で始まります。結核になりやすい人として喫煙習慣のある人、結核高蔓延国から来た外国出生者、糖尿病の人、人工透析を受けている人、ステロイドホルモンを使用している人、胃潰瘍で胃の手術をした人があげられます。

日本では結核は今でも1日に32人の新しい患者が発生し、5人が命を落としている、日本の重大な感染症です。世界に目を向けると、現状では総人口の4分の1が感染しており、新たな発病者は、1060万人、死亡者は160万人となっています。結核は重複感染や多剤耐性結核菌が増加しており、結核制圧を目指して、WHO（世界保健機構）は包括的治療戦略DOTS（Directly Observed Treatment Short-course）「直接服薬確認療法」を提唱しています。日本でも治療が確実に行われるように日本版DOTSがあり、入院中も退院後も服薬を見守っています。

带状疱疹とは、水痘（水ぼうそう）にかかった後、免疫状態が低下したときや加齢に伴って、神経節（末梢神経の神経細胞が集まっている部分）などに潜伏していた水痘・带状疱疹ウイルスが再活性化することで発症します。

健康なときは免疫力が強いため、水痘（すいとう）・带状疱疹ウイルスの活動は抑えられています。免疫力が低下した時に再び活動、増殖し、带状疱疹になると考えられます。周囲の人に带状疱疹としてうつることはありません。しかし、水痘（すいとう）・带状疱疹ウイルスに対する免疫を保有していない人には感染する可能性があり、その場合は水ぼうそうを発症します。

带状疱疹の発症には、加齢が関係しており、日本人では50代から带状疱疹の発症率が高くなっています。80歳までには3人に1人が带状疱疹になると言われています。宮崎県の調査では、带状疱疹の発症率は年々増加しており、1997年からの21年間では1.5倍に増加していることが確認されています。

带状疱疹の予防には、主に50歳以上の方を対象としたワクチンがあります。水ぼうそうにかかったことがある人は、すでに水痘（すいとう）・带状疱疹ウイルスに対する免疫を獲得していますが、年齢とともに弱まってしまうため、改めてワクチン接種を行い、免疫を強

化することで帯状疱疹を予防します。

肺炎とは、肺炎で亡くなる日本人の 97.9%が 65 歳以上の高齢者であり、65 歳以上の人の第 5 位の死因です (2021 年)。年をとるとともに身体の機能は衰え、病気に対する抵抗力 (免疫力) も低下し、肺炎のリスクが大きく増加します。日常でかかる肺炎の原因菌で最も多いのは肺炎球菌です。肺炎予防の第一歩は、感染予防です。そのためにまず、うがい、手洗い、マスクの着用をしっかりと行いましょう。一度使ったマスクは汚れていますので、毎回新しいものに替えてください。また、高齢者 (65 歳以上) が肺炎を防ぐ方法として、「成人用肺炎球菌ワクチン」の接種があります。症状は風邪によく似ているため、最初は区別しにくいので気を付ける必要があります。肺炎にかからないためには、免疫力を高めることが重要です。食事や睡眠などをきちんととる規則正しい生活を送ることが大切です。

山本先生の講話の終了後、受講生から日本のワクチン制度などについての質問が多く、やがて時間を超過するほど関心が高かったです。

【講座の様子】

